

# Rainbow

レインボー

第12号

2023年8月発行

## 思い出作りの「旬」を 意識しましょう

副センター長 辻健史



2023年5月8日に、新型コロナウイルス感染症は5類に格下げとなりました。2020年からの新型コロナウイルスの流行で、不要不急の外出、会食、帰省・旅行など、国をあげて自粛してきました。当センターでも、利用者さんに感染対策優先の利用にご協力いただき、本当にたくさんのご不自由をおかけしました。新型コロナウイルスが消滅したわけではありませんので、今後も流行があると思いますが、失われた時間を取り戻すべく、気持ちを新たにサービスを提供して参りたいと思います。

失われた時間で、失われたのは???。きっと「思い出作り」です。思い出は、思い出を作っている時だけでなく、後からも味わえる。というとてもありがたい特徴がありますし、良い思い出は何度でも味わえます。しかし、思い出作りは、その時にしか、出来ないという残念な面もあります。幼い頃、学生時代の思い出を、後になってから作り直すことはできません。全ての子どもは成長し、大人は衰えます。「そのうちに・・・」と言っていると、思い出作りに良い時期「旬」を逃してしまいます。「面会に行ったら、〇〇君、楽しそうだったね」「〇〇ちゃん、青い鳥祭り、満喫してたね」「私、青い鳥でのリハビリが大好きだった!」という良い思い出を、利用者さん、ご家族に作っていただけるようにセンターとして努力していきたいと思います。今年は、青い鳥祭りもコロナ前に近い規模で計画しています。みなさん、たくさん思い出を作ってくださいね。

### ～目次～

- ・巻頭言 思い出作りの「旬」を意識しましょう 1P
- ・病棟便り 2・3P
- ・寄付の報告 3P
- ・医ケア児支援センター便り 4P
- ・新規採用職員研修 4P

# 病棟便り

## 2 A 病棟

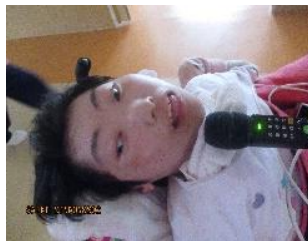
2A 病棟では5月の行事「テラスでカフェ」を複数日にわたって開催しました。少人数（5～6名）の方々に2階のテラスで飲み物を美味しく召し上がって頂けました。

メニュー表を見て飲みたいものを選んで頂き、皆様笑顔がたくさん拝見することが出来ました。お天気にも恵まれ、テラスに植えたプランターの花を愛でて水やりも楽しんで行うことが出来ました。



## 2 B 病棟

4月には新しく来たスタッフとカラオケ会を行いました。緊張している方もいましたが、みんなで歌を歌い終始和やかな雰囲気でした。昔の歌から最近の曲まで…楽しく交流ができました。



5月には「母の日会」を行いました。利用者さんたちに紙を丸めてもらいカーネーションを作りました。また母の日に関連した昔話をプロジェクターに映して鑑賞したり、あわ雪を食べたりしてみなさんでお母さんへの感謝する機会になりました。引き続き、季節を感じられるような行事を行っていきます。

## 1 A 病棟



1A 病棟では、療育活動の一環として季節に合わせた行事を行っています。今年の夏はアイスパーティーをして楽しみました。コロナウイルスも落ち着いてきたため、外出泊も始まりました。アイスパーティーに参加した児は少なかったですが、参加した児は「おいしい!」「つめたーい!」と言いながら笑顔でアイスを食べました。

コロナウイルスも落ち着いてはきていますが、引き続き感染対策を行いながら子供たちが楽しめるよう、季節に合わせた行事を行っていきます。





## 1 B 病棟



1B病棟の5月のお楽しみ会では、かわいいお花や夏に向けてスイカを植えました。毎日スタッフと一緒に水やりをしながら、甘くておいしいスイカができますよーに！とスイカへ声掛けをしています。

本格的な夏の時期は体力や食欲が落ちたり、睡眠時間も不十分だったりして夏バテしやすい時期です。生活のリズムを整えながら、1B病棟の仲間たちはこの夏も元気に乗り越えていきます。



## 通園

お子さんの通園での様子を知ってもらおうと企画した父親参観。今回はゲーム大会を行いました。お子さん競技とお父さん競技があり、みんなで盛り上がりました。お子さんを愛おしそうに見つめるお父さんの表情が印象的でした。



後半はお父さん同士の交流会を設定し「この子が生まれてきてくれたから、他の家族以上に今を大事にし、そして将来を想像する力や感性を育ててもらっている」など、お父さんたちから感慨深いお話をいただきました。今後も同志の繋がりの方を大切にしていける通園であり続けたいと思っています。



家族の会から先日いただいたご寄付で「カラオケセット」「大型紙芝居」を購入しました。さっそく活用させていただき、療育活動が豊かになっています。

大切に末永く使っていきたく思います。

ありがとうございました。



# 医療的ケア児支援センター便り

三河青い鳥医療的ケア児支援センターでは、医療的ケア児及びそのご家族や保育所・学校・障害福祉サービス事業所等支援者からの相談や研修、関係機関連携、情報収集・発信を行っています。

事業を開始した昨年度1年間で、専門相談では25件の相談をお受けしました。在宅移行に関するサービスや医療的ケアの対応可能な事業所等、地域の相談支援専門員や保健師からご相談を多くいただきました。また相談の年齢も未就学児に関することが多く、早期から地域の支援者とつながり、今後の生活に関する社会資源の情報が必要とされていることが分かりました。今年度も当センター事業の周知を図りながら、多様な医療的ケア児への相談を一緒に考えていきたいと思っております。お気軽にご相談ください。

## 新規採用職員研修を行いました

4月1日付けでの新規採用職員と、昨年度途中採用職員を対象に、4月初めに新規採用職員研修を行い、座学、実技で当センター職員としての基礎を学びました。



早く業務になれ、これからさらに多くの知識、技術を習得して、利用者さんのために活躍されることを期待します。読者の皆様には、応援よろしく申し上げます。

当センターを含め社会全体が、3年余りにわたって新型コロナウイルス感染症に苦しめられてきました。

この間の社会の変化すべてが悪いものではないと考えますが、入所利用者様と家族との交流が制限されたことは、良くなかったと言わざるを得ません。なかなか元通りにはなっていませんが、早く新型コロナによる不自由がなくなっていくことを願っています。

## 愛知県三河青い鳥医療療育センターの理念・基本方針

### 理 念

障害のあるお子さんと重症心身障害のある成人の方を主な対象とした愛知県東部における医療・療育センターとして、利用児・者の人権を尊重し、最良の医療を提供するとともに、多様化する福祉ニーズに的確に答えていきます。

### 基本方針

- 1 利用者へのサービスの向上  
利用児・者に対する医療、療育の充実に努める。
- 2 地域福祉への貢献  
地域における療育拠点として、各機関や行政との連携をはかり、利用児・者とその家族を支援する役割を果たしていく。
- 3 人材育成と明るい職場づくり  
施設運営の持続的発展のため、職員に研修会等への参加の機会を与え、資質の向上をめざす。また、各職員が業務や運営についての意見が述べやすい環境づくりに努める。
- 4 財政基盤の安定化  
安定した財政基盤の確立のため、収入財源の確保に努め、効率的な運営を行う。



社会福祉法人恩賜財団済生会支部愛知県済生会  
愛知県三河青い鳥医療療育センター

〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町小屋場9番地3  
TEL 0564-64-7980 (代表) FAX 0564-64-7981  
<https://www.mikawa-aoitori.jp/> QRコード→

